

日本グループ・ダイナミックス学会会報

ぐるだいい



ニュース

The Japanese Group Dynamics Association

第 2 9 号
(2005年9月30日)

発行所：〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学大学院人文社会系研究科山口勸研究室

日本グループ・ダイナミックス学会

Tel: 03-5841-3870 FAX: 03-3815-6673

e-mail: ijesp_ed@L.u-tokyo.ac.jp

発行人：山口 勸 編集担当：山口裕幸

〈 目 次 〉

§ 新会長からの挨拶	1
§ 第52回大会開催のご報告	2
§ 次回(第53回)大会開催のお知らせ	5
§ アジア社会心理学会の開催報告と次回開催について	6
§ 三隅賞の選考経過と結果のご報告	6
§ 会費納入のお願いについて	7
§ 本学会における研究倫理規定	7
§ 総会・常任理事会・理事会・編集委員会等議事録	8
§ 会員異動	18
§ 事務局からのお願い／広報担当からののお知らせ／諸連絡先	18

★★ 新会長からの挨拶 ★★

新会長 山口 勸 (東京大学)

このたびの選挙結果により本年4月より会長を務めさせていただいております。新体制を発足させるにあたり一言ご挨拶申し上げます。

すでに会員の皆様はよくご承知のように、本学会にはさまざまなオリエンテーションを持った会員がいらっしゃいます。学会の大きな効用の一つは、こうした一見異なった研究あるいは実践志向を持った方々が、お互いに刺激しあいそれぞれの研究分野での学問的な生産性を高めることにあると思います。そこで、会長としてこれから二年間、さまざまなオリエンテーションの間の建設的な融合に務めて参る所存です。

こうした純学問的な課題だけでなく、昨今の学会や大学を取り巻くさまざまな状況にも的確に対処していく必要性を感じております。会員の皆様の学界(学会ではなく)や大学での活動が少しでも円滑に行われるように本学会がすべきこと、あるいはできることはたくさんあると考えております。すべての会員の皆様にとって有益なことがらに専心していくつもりです。以下に、そのいくつかを列挙いたします。

1. 学会誌の強化

掲載論文の質を高めることはもちろんですが、迅速な審査と定期的な発行は、すべての会員の望んでいらっしゃるのだと思います。残念ながら、昨年度は邦文誌を皆様のお手元にお届けすることができませんでした。それでも、ようやく今週中には皆様のお手元に「実験社会心理学研究」第44巻第一号をお届けすることができるようになりました。さらに、第二号も夏ごろまでにはお届けする予定です。この遅れについて、前編集長から審査とともに改稿の遅れなど複合的な要因によるものだったとうかがっております。

そこで、今年度からは迅速な審査とコストの削減のため、郵送ではなく、電子メールを用いた審査依頼、結果の報告、編集委員会での審議をすすめて来ております。こうした方法により、少しでも早く審査結果を投稿者のもとにお届けするようにいたします。また、お忙しい中を審査いただいている審査員の方々には恐縮ですが、審査の遅れをなくするように催促を頻繁にさせていただくことを考えております。もちろん、著者の方に早く原稿の修正をしていただくことも必要です。

2. 年次大会での発表賞の新設

最近では、若い研究者の方々にも、早く成果を出すことが求められております。また、公募などで心理学の分野の候補者と競合することもしばしば生じております。こうした厳しい競争にさらされる若手の研究者の方を支援するために、大会での発表賞を新設することを考えております。確かに、優劣をつけることは難しいですが、誰にも賞を出さないよりも、少しでも多くの方に賞を出す方が会員の皆様の利益になるのではないのでしょうか。もちろん、こうした賞は年次大会の活性化にもつながることと期待しております。

3. 情報公開の促進

学会には、学術誌の刊行や年次大会の開催などという、いわば「内向き」の活動とともに、対外的な活動も求められています。たとえば、さまざまな機関から、学会としての意見や候補の推薦を求められています。学会のこうした対外的な活動の側面についても、できるかぎり会員の皆様に情報を開示してまいりたいと考えております。本年度はすでに大学評価・学位授与機構から大学評価の専門委員の推薦を求められ、常任理事会で協議しました。その結果、専門委員候補者として、常任理事(辞退した一名を除く)に地域および性別のバランスを考慮してお願いした4名を加えた合計10名の方を推薦いたしました。大学評価・学位授与機構は各学会からの推薦にもとづいて、最終的に委員を決定することになっております。

こうした情報公開には、速報性のあるグルダイフラッシュを活用したいと考えております。グルダイフラッシュはホームページでご覧になることもできますが、下記にご登録いただければ皆様のメールアドレスに配信されます。この機会に、多くの皆様に登録いただきますようお願いいたします。詳細は(中西印刷株式会社学会部・日本グループ・ダイナミックス学会担当: jgda@nacos.com)にご連絡ください。

以上、会長就任にあたっての抱負を述べさせていただきました。実現のためには、会員の皆様のご協力が不可欠ですので、ご助力を賜りたくお願い申し上げます。

★★ 第52回大会開催のご報告 ★★

第52回大会報告

大会準備委員長 永田素彦 (三重大学)

日本グループ・ダイナミックス学会第52回大会は、2005年3月20、21日に、神戸国際会議場にて開催されました。今大会は、ロング、ショート、English、ポスター、シンポジウム、ワークショップあわせて約100件の発表がありました。大会参加者は207名(会員139名、非会員59名、学生9名)で、その他大会シンポジウムにも一般の方に多数ご来場いただきました。大会シンポジウム、3つのワークショップ、Wolfgang Wagner氏による特別講演、そしてそれぞれの発表会場、いずれも質の高い発表と熱心な議論がなされ、盛会でした。大会を盛り上げてくださった皆様に心から感謝申し上げます。

さて、今大会では、通常の会員同士の学術交流に加えて、グルダイのフィールドに身をおき実践をしている方々に多数参加していただくことを試みました。おりしも阪神淡路大震災と地下鉄サリン事件から10周年という節目でしたので、それらの災厄テーマとした大会シンポジウムを実施しました。また、看護と防災をテーマとした2つのワークショップや、看護関係の特別セッションを実施しました。いずれの企画でも、会員だけでなく非会員の方々にも発表をしていただき、フロアからの議論にも積極的に参加していただきました。例えば渥美前会長の就任時に「社会のニーズに呼応した夢のある個性的な学会へ」

という構想が示されましたが、決して安くはない大会参加費を支払って大会に熱心に参加してくださる非会員の方がこれだけ多くいるということは、グルダイ学会に対する社会のニーズがいかに大きいかを示しているように思われます。

なお、今大会は「震災10年 神戸からの発信」から助成を受けることができました。おかげさまで、大会を立派に開催することができました。末筆ながら記して関係者の方々に深く感謝申し上げます。

大会メインシンポジウム報告

「あれから10年－阪神大震災とオウム 災厄の言語化に関するグループ・ダイナミックス」
ハッ塚一郎（熊本大学）

歴史的な災厄と、それが引き起こす問題に取り組み、記述を積み重ねてきた研究者は本学会にも数多い。地下鉄サリン事件からちょうど10年のこの日、阪神大震災から10年を迎えた神戸で、記述することの可能性と課題を多角的に問い直し、研究者の役割と存在意義を考えることを、コーディネーターの渥美公秀氏（大阪大学）は提起した。

災害対応NPOで長年活動してきた栗田暢之氏（特定非営利活動法人レスキューストックヤード代表）は、企画、広報、報告など、実践の場における「書く仕事」の多面性とその重要性を指摘した。活動を記録し検証してくれる存在としての研究者に大きな期待を寄せ、相互の連携の必要を強く訴えた。

報道人として阪神大震災に取り組んで来た山中茂樹氏（朝日新聞／05年4月より関西学院大学）は、公害事件などとも通じる、社会のひずみや法制度の不備を照らし出す手がかりをそこに見出して来た。一方で、目新しい出来事のみを追いかけ、地道な取材や調査報道をないがしろにすることが、被災者に新たな災いをもたらす危険性をも指摘した。

マインド・コントロール研究に長らく携わってきた西田公昭氏（静岡県立大学）は、裁判へのかかわりを軸に、地下鉄サリン事件に関与したオウム真理教幹部へのインタビューの概要を報告した。彼らの発言には、今もなお、理解を拒み文章化をためらわせるものがあり、そのリアリティを記述し伝えるための取り組みを続けている。

筆者は社会構成主義の視点から、被災し破壊された生活世界と、それ以外の無事な生活世界との落差として、災厄の構造を整理した。無傷な生活世界は、復旧と忘却という形で、被災した人々のリアルな生活世界を破壊し、第二の災厄をもたらす。それに抵抗し、災厄の経験を織り込んだ別のリアリティを提示することが、記述の機能、研究者の責務である。

質疑では、戦争の記憶をはじめとする、歴史的・社会的事象との類比性が指摘された。こうした討議自体が、記述という営みの一部であることを確認し、セッションは閉幕した。

「人と防災未来センター・ツアー」を終えて

矢守克也（京都大学）

大会2日目（3月21日（月））の夕刻、特別プログラムとして、「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」へのツアーを実施しました。同センターは、震災体験・

教訓の継承と発信、防災研究の推進などを目的に兵庫県が中心となって設立した施設です。大会終了後という時間帯にもかかわらず、大会で特別講演をしてくださったリンツ大学のワーグナー教授をはじめ熱心な参加者の方々に恵まれて、企画者として大変ありがたく感じました。ご記憶の方も多いでしょうが、大会初日午前、福岡県西方沖地震が発生し大会会場でも若干の揺れを感じました。このことも手伝ってか、みなさん、ある種の緊迫感をもってツアーに臨まれたように思います。

ツアーでは、まず、通常の見学コース（「1.17シアター」、「語り部コーナー」、「震災直後のまち（再現）」、「防災ワークショップ・コーナー」など）をご案内しました。「語り部コーナー」では、被災者の方から当時の様子について非常に具体的な経験をうかがうことができました。さらに、同センターの震災資料室の方々のご好意で、通常は見ることでできない16万点にもものぼる震災関連1次資料を保管する資料室保管庫も拝見することができました。

実は、当初は、災害研究、コミュニティ研究などにご関心をおもちの方にお役だていただけると思い企画したツアーでした。しかし、ふたを開けてみると、「今は東京の大学

に勤めているが実は芦屋出身で…」と教えてくれた方、「日本社会に起きたとても大きな出来事だからきちんと知っておきたい…」と語ってくれた方など、むしろ個人的な思いからご参加いただいた方が多かったように思います。何だかんだ言っても、最後は、こうした思いが出来事を次世代に引き継いでいくのだなあと感じたツアーでもありました。

最後になりましたが、ご参加いただいた皆さま、本企画を裏方で支えてくださった大会事務局の皆さま、そして、いろいろと無理を聞き入れてくださった人と防災未来センターのスタッフの皆さまに、心よりお礼を申し上げます。

第52回大会に参加して

元吉忠寛（名古屋大学）

第52回大会が震災から10年目を迎えた神戸で開催された。大会初日、福岡県西方沖で地震が発生したというニュースを聞きながら、タクシードライバーは、震災のときの話をぼつりぼつりとしていた。会場の神戸国際会議場は落ちついた雰囲気の中、すでに多くの参加者で賑わっていた。大会は、メインシンポジウムをはじめ、防災に関する研究発表が多く、個人的には興味深いものもあった。また、グルダイらしい特色ある企画もいくつか開催されていたようである。しかし、正直に言って、全体的にはやや物足りなさを感じてしまったし、同じような感想を異なる世代の何人かの人からも聞いた。もっと多くの幅広い研究者による発表が行われ、質の高い活発な議論が交わされることによって、大会全体がいつそう盛り上がることを心より期待したい。

今回は、これまであまり親交のなかった大勢の若い研究者の方々と、交流できたこと（飲みに行ったこと）が大きな収穫の一つだった。昔話をする方たちが若かったころに比べると、そういう雰囲気もだいぶ薄くなってしまっているのかなあと寂しく感じていたので、貴重な機会だった。こういうことができるのも、多くの研究者が一堂に会する魅力的な大会があってこそのことだと思う。

第46回大会が名古屋大学で開催されたとき、初めて発表を行うとともに、準備委員として参加して以来、グルダイの大会では、オモテだけでなくつついっついウラにも目がいってしまう。最後になってしまったが、大会の開催準備にご尽力いただいた多くの方々に感謝申し上げたい。

日本グループ・ダイナミックス学会第52回大会に参加して

西村太志（東亜大学）

第52回大会に参加して、思ったことや感じたことなどを書きたいと思います。

と書いておきながら、昨年の体験記（大阪国際大学森上先生）を読み返して、森上先生以上に何を書こうかと苦悩しているというのが正直なところ。なぜなら、この文の依頼を受けたのが、学会参加後3ヶ月以上経過した、梅雨の終わりの時期だからです。正直お断りしたかったのですが、広報担当山口裕幸先生の依頼とあり、拙文になることを覚悟の上で引き受けさせて頂きました。

さて、第52回大会は、神戸国際会議場で2005年3月20日、21日に開催されました。時期的に駆け出しの大学教員をしていると卒業式や次年度の準備でてんやわんやの時期ですが、あえて学会予定を入れることで、自らを研究面でも奮い立たせようと3大会ぶりにエントリーをし、口頭発表することとしました。もちろんそこには、「学会に行くので、大学の仕事はこの間はできませんよ。」という言い訳的な目的が全く無かったわけではありませんが・・・。

ただやはり、時期的に参加できない先生方も多かったようで、普段の学会でお目にかかる方々ともお会いすることができなかつたように思います。学会開催時期をいつにするかは、主催者の事情、会場の確保、他学会とのバッティングなどで難しいと思いますが、多くの方が参加しやすい時期の設定がなされればいいなと個人的に思います（といっても大学院生時代にグルダイが春開催に移ることは、非常によいのではと思っていましたので、自らの個人的立場でこの考えはまた変わってしまうのでしょうか。）。

自分の発表は初日のショート・スピーチ1の最初となっていました。他の発表者の先生

方のテーマも多様で、約30名程度収容可能な会場は、立ち見も出るほどの盛況でした。自分の発表終え、ほっと一息つき会場後方で他の発表者の方の発表を聞いているときでした。妙なかすかな振動を感じ、「弱い地震でもあったのかなあ」と思いつつ、そのまま聞いていました。すると、セッション終了の頃に、知人が「北部九州で大きな地震が起った。」と伝えてくれました。すぐにロビーのテレビを見に行きましたが、素人のど自慢をNHKは流していたので、たいしたこと無いのかなとは思いましたが、下関の同僚、ゼミ学生に連絡をとっても通話規制でかからないことしばしば。情報が入らないことの不安、いらいらを、10年前に大震災があった神戸の地で体験するとは思いませんでした。総会でも、大会主催者の方々から、「適宜情報をいれます」とアナウンスがありましたが、結局総会やその後のシンポジウムも参加せずに、情報収集などに時間を使っていました。午前の発表終了後に質問などに来て頂いた方もおられたのですが、このときは結構気が動転してしまっただけで、きちんとした応対ができなかったのではと後で反省する次第です。

私の住む下関は震度4程度でしたが、研究室の中の状況（6階に研究室があり、全く地震対策をしてない部屋です）や自宅アパートの状況がやはりわからないので、その後もなんとなく他の先生の学会発表などにも集中できず、2日の学会が終わってしまったように思います。幸いにして、大学研究室、自宅など被害もなく済みました。4月に入って大きな余震が朝数回ありましたが、かなりの揺れを感じたので、本震の時はもっと規模が大きかったのではと思います。

正直申して、このような事態があったこともあり、学会への参加は今回ほとんどできていません。また、記憶をたどってもあまり印象的なことが思い出せません。ですから、内容について私が書くのは非常におこがましい限りですが、知人、後輩の院生達から聞いたことも交えて、大会についての感想を少し述べたいと思います。3ヶ月以上前の記憶をたどっていますので、現在の自分の感想や評価がかなり載っている文章になっていると思います。

まず、発表の全体的な内容が今回は偏っているのかなという印象をもちました。私が最初にグルダイ学会に参加したのは、1998年の名古屋大学での大会ですが、あのときはかなり多様なテーマで、多くの研究者の方が発表されていたように記憶しています。今回のプログラムを見返しますと、私の勉強不足もありますが、比較的近いテーマで一連発表的に映るものが多かったように思います。もちろん、研究発表されている先生方は皆「グループ・ダイナミックス」に基づいた発表をされていると思います。関心の近い研究者達が、かなり深いテーマでセッションを行うことは、研究の発展にとって重要であると思います。しかし、もしかしたら、それが数居の高さとして、少し関心の違う研究者の目には映るのかもかもしれません。日程的な問題、発表件数などから仕方ない部分は多々あると思いますが、「今回の学会は内容的におもしろうだな」と多くの人が思える学会大会のあり方、プログラムの工夫があるとよりよいものではないかと思います。

また、平行セッション（口頭とポスター）が同じ時間帯に開催されたことで、十分見ることができなかったものもいくつかあったように思います。これも時間的制約などの点で難しいのかもしれませんが、改善されればと思います。

もちろん、今回の学会が非常に有意義であった先生方も多くおられると思います。運営に携われた多くのスタッフの方々の労に対しては、心から感謝の念を述べたいと思います。あくまでも、ひとりの会員の意見として、グルダイ学会がさらに発展することを祈って、今回の体験記を終えたいと思います。

★★ 次回（第53回）大会開催のお知らせ ★★

第53回大会準備委員長 小西 啓(武蔵野大学)

このたび日本グループ・ダイナミックス学会第53回大会を、平成18年5月27日（土）、28日（日）の両日、武蔵野大学人間関係学部でお引き受けすることになりました。

本学は都心に近いロケーションながら武蔵野の面影を残す緑の多いキャンパスです。時期も5月、最も緑豊かな中での大会となります。諸施設やスタッフ数など、学会開催のための条件が整っていると思わせませんが、理事の先生方とも協力して実りある大会になるよう努力したいと思います。

近年、本学会は若手研究者たちの育成も大きな目的となっております。多くの会員の方

にご参加いただき、活発な議論を重ねて頂きたいと思います。何とぞご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

★★ アジア社会心理学会の開催報告と次回開催について ★★

アジア社会心理学会第6回大会のご報告と第7回大会のご案内

山口 勸（東京大学）

アジア社会心理学会の第6回大会はニュージーランドのウェリントンにおいて4月の初めに開催されました。ウェリントン名物の強い風が吹く中、18の国と地域から224名の参加者がありました。日本からも、学年初めの多忙な時期にも関わらず、前会長の渥美先生をはじめとして他の国を圧倒する最多の64名の参加者がありました。国別では、続いてニュージーランド(31名)、タイ(21名)、オーストラリア(19名)、韓国(17名)、台湾(10名)という順番です。相変わらず日本・韓国・台湾という東アジア地域からの参加者が中心ですが、タイから予想外に多くの参加者があったことは、アジア社会心理学会が順調に発展していることを示しています。研究発表の面でも、15のシンポジウムが開かれ、合計146件の研究発表が行われましたが、どの部屋でもなごやかな雰囲気の中で、真剣な議論が行われていました。

また、次回の第7回大会はマレーシアのサバ州の州都であるコタ・キナバルで2007年の7月25-28日に行われることが決定され、アナウンスされました。コタ・キナバルはボルネオ島の自然に恵まれた地域にありますが、現代的な都市でもあります(<http://www.sabahtourism.com>)。すでにUniversiti Malaysia Sabah(UMS)がホストとして大会の準備を始めておりますので、今後具体的な情報が届き次第、会員の皆様にお伝えいたします。多くのグルダイ会員の皆様とコタ・キナバルでお会いすることを楽しみにしております。

★★ 三隅賞の選考経過と結果のご報告 ★★

渥美 公秀（大阪大学）

2005年は、2年に1度のアジア社会心理学会大会の開催年にあたりますので、AJSP第6巻および第7巻に掲載された論文を対象として、それぞれ2003年度と2004年度の三隅賞を選考しました。選考委員は、選考規定に則り、日本グループ・ダイナミックス学会から3名、アジア社会心理学会から2名が担当しました。当学会からは、大淵常任理事、山口常任理事、そして、渥美、アジア社会心理学会からはBernardo氏（フィリピン）、Hwang氏（台湾）が選考にあたりました。選考委員は、各巻に掲載された論文を読み、第1候補から第3候補まで3編の論文を個別に選びました。第1候補に3点、第2候補に2点、第1候補に1点を与える方式で審査をしました。

集計した結果、第6巻からは、第3号に掲載されました

Yeh, K.H., & Bedford, O. "A test of the Dual Filial Piety model"
が最高得点を獲得し、2003年度三隅賞が授与されることになりました。

一方、第7巻からは、第2号に掲載されました2編の論文

Morris, M.W., Leung, K., & Iyengar, S. "Person perception in the heat of conflict: Negative trait attributions affect procedural preferences and account for situational and cultural differences."

および

Huang, L.L., Liu, J.H., & Chang, M. "The double identity' of Taiwanese Chinese: A dilemma of politics and culture rooted in history."

が同点となり、協議の結果、両方を2004年度三隅賞論文とすることとしました。

著者には賞状と賞金（2004年度は2論文で折半）をお贈りしました。改めて受賞をお祝いしたいと思います。

★★ 会費納入のお願いについて ★★

会長 山口 勸（東京大学）

多くの会員の方には毎年度きちんと会費を納入していただいておりますが、大変残念なことに、多年にわたって会費を未納のままにしていらっしゃる方もあります。いつまでもこのままにしておくわけにはまいりませんので、常任理事会で検討いたしました。その結果、引き続き会費の納入をお願いしますが、二年以上会費を滞納していらっしゃる方には、会則第6条の規定により理事会の決議を経て退会を求めることにいたしました。また、本年度刊行の実験社会心理学研究第45巻より、年度会費の納入を確認してから、実験社会心理学研究をお送りするようにいたしますので、遅滞なく年度会費を納入してくださいませようお願いします。

このような措置を厳しすぎるとお考えの方も、あるいは、寛容すぎるとお考えの方もあらうかと思います。私どもでは念のために弁護士と未納会費についての法的措置も検討した上での判断ですので、ご理解賜れば幸いです。

★★ 本学会における研究倫理規定について ★★

倫理規定担当常任理事 吉田 道雄（熊本大学）

常任理事会において前期から継続して検討して参りました本学会の研究倫理規定に関しまして、以下のように綱領を定めることで結論を得ましたので、会員の皆様にご報告申し上げます。

日本グループ・ダイナミックス学会研究者・実践者倫理に関する綱領

日本グループ・ダイナミックス学会は、すべての会員が基本的な人権を尊重し、真摯に研究を展開することを願っている。

本学会では倫理に関して以下の条項を定める。

1) 人権の尊重

本学会の会員は研究および実践活動を進めるにあたって、研究協力者となる個々人の人権を尊重しなければならない。とくに、集団に対する働きかけに際しては、成員個々人のみならず当該集団全体の健全さを損なうことのないように十分な配慮をしなければならない。

2) 説明と同意

研究および実践活動に際しては、研究協力者に対して事前に研究の目的や協力の内容を十分に説明し同意を得なければならない。その説明が誇大であったり虚偽を含んだりしてはならない。なお、事前の了解が諸活動の展開に支障がある場合には、説明可能になった時点で速やかに対処することとする。また、研究や実践活動を進めている途中において、研究協力者からの求めがあれば、その意思を尊重し研究や実践活動を中止しなければならない。さらに、研究協力者からの申し出がない場合でも、当該協力者にとって問題が生じる可能性があると考えられるときには同様の措置をとるものとする。研究結果を公表するにあたっては、関係者から同意を得ることが求められる。

3) 情報の管理および秘密の保持

研究および実践活動で得られた研究協力者に関わる情報については厳重に保管すると

もに、秘密の保持に努めなければならない。また、同意された目的以外に情報を使用してはならない。

4) 不正の防止

研究および実践活動に際しては、論文の盗用や尺度の無断使用など、不正と認知される恐れのある行為をしてはならない。また、学会誌掲載論文でこの種の問題が起きた場合には、その旨を直ちに編集委員長に申し出るものとする。

★★ 2004年度 新旧合同常任理事会・常任編集委員会議事録 ★★

- 日時：2005年3月19日（土） 13:00-16:00
- 場所：神戸国際会議場・407会議室
- 出席者：大橋英寿・大淵憲一・山口裕幸・吉田道雄・廣岡秀一・渥美公秀・矢守克也・相川 充・村本由紀子・山口 勸・吉田俊和

常任理事会

【報告事項】

総務

1. 三隅賞選考経過報告
渥美会長より、Bernardo（フィリピン）、KK.Hwang（台湾）、大淵、山口（裕）の4委員で選考中との報告があった。
2. 優秀論文賞選考経過報告
渥美会長より、別紙資料に基づき、唐沢理事を委員長として選考中であるとの報告があった。
3. 名誉会員推戴
渥美会長より、佐々木薫先生を推戴するとの報告があった。
4. 日本心理学諸学会連合
山口（裕）常任理事より、「心理学検定」の現状などについて報告があった。
5. 編集事務局・学会事務局の移動
山口新会長より、編集事務局（東大、山口先生）、学会事務局（横浜国大、村本先生）を原案として協議中であるとの報告があった。
6. 51回大会報告
渥美会長より、別紙資料に基づき報告があった。20万円寄付（返還金）のお申し出があり、ありがたく頂戴したとの報告があった。
7. 次期大会主催校について
渥美会長より武蔵野大学で小西先生を大会委員長として開催される予定であることが報告された。

広報

1. ぐるだいニュースの発行
廣岡常任理事より2号刊行されたとの報告があった。4号刊行予定であったが、不足分はフラッシュ（メールマガジン）などで補完できていると考えている（ただし、2割強の会員は紙媒体のみである）との報告があった。
2. Blackwellからの資料
渥美会長より、インパクトファクター向上に関する資料について説明があった。

会計・事務

1. 2003年度決算・監査報告
渥美会長より別紙資料に基づき報告があった。
2. 2004年度決算途中経過
渥美会長より別紙資料に基づき報告があった。
3. 会員異動・会費納入率
渥美会長より別紙資料に基づき報告があった。納入率の向上へ向けて督促などの努力、長期未納者への対応（自動退会など）が必要との意見が出された。

選挙結果報告

1. 選挙結果報告

大淵常任理事より別紙資料に基づき報告があった。

雑誌改革

1. 51回大会特別企画報告書（渥美）

渥美会長より別紙資料に基づき、これまでの経緯について報告があり、雑誌改革に関する議論を今後も、より具体的な形で継続していくこととなった。

【審議事項】

1. 2005年度予算案

渥美会長より別紙資料に基づき説明があった。「大会助成金」は「大会運営費」として計上する方がいいとの意見が出され、了承された。

○ 会員数を実態とあわせるべく、今後、会費未納入者の「自動退会」制度を導入（理事会の決議を経て）するための措置をした方がいいとの議論がなされた（収入欄の会員数を減らすなど）

2. 大会運営について

渥美会長より、特定の大学（機関）に任せる形式ではなく、学会本体（常任理事会が中心となり、担当の常任理事をおく）がサポートして運営する形式についても、大会主催校と常任理事会との役割分担のあり方も含め、今後その可能性を検討していくこととなった。運営費として助成金を財源とする点についても議論がなされた。

3. AASP大会参加奨励賞

矢守常任理事より別紙資料に基づき提案があった。奨励賞の新設については了承された。ただし、賞の名称を含め、細かな規定については今後、常任理事会、理事会で詰め、次回大会（53回大会）での承認を目指すことになった。あわせて、グルダイ学会最優秀発表賞（ポスター／口頭）も新設することとなった。

4. 倫理規定

吉田常任理事より、別紙資料に基づき提案があった。異議なく了承された。位置づけとしては、「倫理綱領」として独立して位置づける。

5. その他

渥美会長より学会運営WSについての進行について、小グループ・ディスカッションで進めるので、常任理事は参加してほしいとの依頼があった。

常任編集委員会

【報告事項】

1. 実社心研・AJSPの編集状況

渥美編集委員長より、別紙資料にもとづき説明があった。44-1は05年4月刊予定（発行日は05年1月）、44-2は05年5月刊予定（発行日は05年3月）。なお、当初44-2に掲載予定であった大淵常任理事による特集は、45-1に掲載することが了承された。

2. バックナンバーのオンライン化

渥美編集委員長より、別紙資料に基づき説明があった。PDF仕様（1件15000円、30年分）で作業を中西印刷、J-stageと交渉・依頼することとした。

3. 特集について（大淵案・遠藤案・矢守案）

矢守常任理事より説明があり、了承された。

【審議事項】

1. 特集論文執筆要項

山口常任理事より、別紙資料に基づいて提案があった。ただし、細則ではなく実社心研の編集諸規定の中に位置づけることとした。

★★ 2004年度 新旧合同理事会・編集委員会議事録 ★★

- 日時：2005年3月19日（土） 16:00-19:00
- 場所：神戸国際会議場・503会議室
- 出席者：大橋英寿・大淵憲一・山口裕幸・吉田道雄・廣岡秀一・渥美公秀・矢守克也・相川 充・村本由紀子・山口 勸・吉田俊和・鹿内啓子・國吉和子・高井次郎・唐沢 穰・永田素彦・ハッ塚一郎・坂田桐子・吉田寿・青野・渡邊としえ・石井 滋

理事会

【報告事項】

総務

1. 三隅賞選考経過報告
渥美会長より、Bernardo（フィリピン）、KK.Hwang（台湾）、大淵、山口（裕）の4委員で選考中との報告があった。
2. 優秀論文賞選考経過報告
唐沢委員長より、沼崎・工藤論文（「自己高揚的呈示と自己卑下の呈示が呈示者の能力の推定に及ぼす効果—実験室実験とシナリオ実験との相違」）が選出されたことが、選考経過とともに報告された。
○ あわせて、次の点も議論された：選考委員会に少数の委員しか出席できない現状があるので、改善が必要ではないか。選考の基準をもう少し明確化すべきではないか。論文種別などのウェイトづけは必要ではないか。
3. 名誉会員推戴
渥美会長より、佐々木薫先生を推戴するとの報告があった。
4. 日本心理学諸学会連合
山口（裕）常任理事より、「心理学検定」の現状などについて報告があった。
5. 編集事務局・学会事務局の移動
山口新会長より、編集事務局（東大、山口先生）、学会事務局（横浜国大、村本先生）を原案として協議中であるとの報告があった。
6. 51回大会報告
渥美会長より、別紙資料に基づき報告があった。20万円寄付（返還金）のお申し出があり、ありがたく頂戴したとの報告があった。
7. 次期大会主催校について
渥美会長より武蔵野大学で小西先生を大会委員長として開催される予定であることが報告された。

広報

1. ぐるだいニュースの発行
廣岡常任理事より2号刊行されたとの報告があった。4号刊行予定であったが、不足分はフラッシュ（メールマガジン）などで補完できていると考えている（ただし、2割強の会員は紙媒体のみである）との報告があった。
2. Blackwellからの資料
渥美会長より、インパクトファクター向上に関する資料について説明があった（ただし、資料なし。口頭説明のみ）。

会計・事務

1. 2003年度決算・監査報告
渥美会長より別紙資料に基づき報告があった。
2. 2004年度決算途中経過
渥美会長より別紙資料に基づき報告があった。
3. 会員異動・会費納入率
渥美会長より別紙資料に基づき報告があった。納入率の向上へ向けて督促などの努力、長期未納者への対応（自動退会など）が必要との意見が出された。

選挙結果報告

1. 選挙結果報告

大淵常任理事より別紙資料に基づき報告があった。

雑誌改革

1. 51回大会特別企画報告書（渥美）

渥美会長より別紙資料に基づき、これまでの経緯について報告があり、雑誌改革に関する議論を今後も、より具体的な形で継続していくこととなった。山口（裕）常任理事、坂田理事より資料の数値について質問があった。

【審議事項】

1. 2005年度予算案

渥美会長より別紙資料に基づき説明があった。「大会助成金」は「大会運営費」として計上する方がいいとの意見が出され、了承された。

○ 会員数を実態とあわせるべく、今後、会費未納入者の「自動退会」制度を導入（理事会の決議を経て）するための措置をしたほうがいいとの議論がなされた（収入欄の会員数を減らすなど）

2. 大会運営について

渥美会長より、特定の大学（機関）に任せる形式ではなく、学会本体（常任理事会が中心となり、担当の常任理事をおく）がサポートして運営する形式についても、大会主催校と常任理事会との役割分担のあり方も含め、今後その可能性を検討していくこととなった。運営費として助成金を財源とする点についても議論がなされた。

3. AASP大会参加奨励賞

矢守常任理事より別紙資料に基づき提案があった。奨励賞の新設については了承された。ただし、賞の名称を含め、細かな規定については今後、常任理事会、理事会で詰め、次回大会（53回大会）での承認を目指すことになった。あわせて、グルダイ学会最優秀発表賞（ポスター／口頭）も新設することとなった。

4. 倫理規定

吉田常任理事より、別紙資料に基づき提案があった。異議なく了承された。「倫理綱領」として独立に位置づけ、総会に提案する。ただし、前文の「微に入り細にわたる」という表現を含め、細かな文章表現は修正がありうる。

5. その他：渥美会長より学会運営WSについての進行について、小グループ・ディスカッションで進めるので、常任理事は参加してほしいとの依頼があった。

1 次期常任理事会への申し送り事項（各常任理事）

p 大会論文集バックナンバーを事務局に送付

p 大会論文集複写依頼取扱

p 学会事務支局業務の再点検

p 予算決算／会計年度／会計士との協働

p 会費引き下げについて←将来計画経費の新設

p ニュースレター完全オンライン化

p ワーキング・グループの継続・新設（会員資格、雑誌改革、会計システム）

p その他

p 常任理事会と理事会とは合同開催することはできないか。審議事項など一部を除いて。

編集委員会

【報告事項】

1. 実社心研・AJSPの編集状況

渥美編集委員長より、別紙資料にもとづき説明があった。44-1は05年4月刊予定（発行日は05年1月）、44-2は05年5月刊予定（発行日は05年3月）。なお、当初44-2に掲載予定であった大淵常任理事による特集は45-1に掲載することが了承された。

○ 10ページを大きく越える論文が目立つので、ルールそのものについても、ルールを守っていただくアクションを査読者がとることも必要ではないか。原稿の

規格化（テンプレート）なども考えてはどうか、などの議論もなされた。

2. バックナンバーのオンライン化

渥美編集委員長より、別紙資料に基づき説明があった。PDF仕様（1件15000円、30年分）で作業を中西印刷、J-stageと交渉・依頼することとした。

3. 特集について（大淵案・遠藤案・矢守案）

矢守常任理事より説明、了承を得た。

【審議事項】

1. 特集論文執筆要項

山口常任理事より、別紙資料に基づいて提案があった。ただし、細則ではなく実社会心理の編集諸規定の中に位置づけることとし、実験社会心理学「研究」という言葉を入れることとした。

★★ 第52回大会 会員総会議事録 ★★

● 日時：2005年3月20日（日） 12:15-13:30

● 場所：神戸国際会議場・国際会議室

● 参加者数：87名

【報告事項】

総務

1. 三隅賞選考経過報告

○ 渥美会長より、Bernardo（フィリピン）、KK.Hwang（台湾）、大淵、山口（裕）の4委員で選考中との報告があった。

2. 優秀論文賞選考結果報告

○ 唐沢委員長より、沼崎・工藤論文（「自己高揚の呈示と自己卑下の呈示が呈示者の能力の推定に及ぼす効果—実験室実験とシナリオ実験との相違」）が選出されたことが、選考経過とともに報告された。

3. 名誉会員推戴

○ 渥美会長より、佐々木薫先生を推戴するとの報告があった。

4. 日本心理学諸学会連合

○ 渥美会長より、「心理学検定」の現状などについて報告があった。

5. 編集事務局・学会事務局の移動

○ 渥美会長より、編集事務局（東大、山口先生）、学会事務局（横浜国大、村本先生）を原案として協議中であるとの報告があった。

6. 51回大会報告

○ 渥美会長より、別紙資料に基づき報告があった。20万円寄付（返還金）のお申し出があり、ありがたく頂戴したとの報告があった。

7. 次期大会（53回大会）主催校について

○ 渥美会長より武蔵野大学で小西先生を大会委員長として開催される予定であることが報告された。

8. 大会運営について

○ 渥美会長より、特定の大学（機関）に任せる形式ではなく、学会本体（常任理事会、担当の常任理事をおく）がサポートして運営する形式（助成金→運営費）についても、大会主催校と常任理事会との役割分担のあり方も含め、今後その可能性を検討していくことが報告され、異議なく了承された。

9. AASP大会参加奨励賞

○ 矢守常任理事より別紙資料に基づき提案があった。奨励賞の新設については了承された。ただし、賞の名称を含め、細かな規定については今後、常任理事会、理事会で詰め、次回大会（53回大会）での承認を目指すことになった。あわせて、グル・ダイ学会最優秀発表賞（ポスター、口頭）をも新設することとなった。異議なく了承された。

編集委員会

1. 実社心研・AJSPの編集状況
 - 渥美編集委員長より、別紙資料にもとづき説明があった。44-1は05年4月刊予定（発行日は05年1月）、44-2は05年5月刊予定（発行日は05年3月）。なお、当初44-2に掲載予定であった大淵常任理事による特集は45-1に掲載することが了承された。
 - （メモ）10ページを大きく越える論文が目立つので、ルールそのものについても、ルールを守っていただくアクションを査読者がとることも必要ではないか。原稿の規格化（テンプレート）なども考えてはどうか。
2. バックナンバーのオンライン化
 - 渥美編集委員長より、別紙資料に基づき説明があった。pdf仕様（1件15000円、30年分）で作業を中西印刷、J-stageと交渉・依頼することとした。
3. 特集について
 - 矢守常任理事より大淵案・遠藤案・矢守案について説明があり、異議なく了承された。

広報

1. ぐるだいニュースの発行
 - 廣岡常任理事より2号刊行されたとの報告があった。4号刊行予定であったが、不足分はフラッシュ（メールマガジン）などで補完できていると考えている（ただし、2割強の会員は紙媒体のみである）との報告があった。
2. ホームページの運用
3. Blackwellからの資料。
 - 渥美会長より、インパクトファクター向上に関する資料について、口頭で説明があった。

会計・事務

1. 2003年度決算報告・監査報告
 - 渥美会長より別紙資料に基づき報告があった。異議なく了承された。
 - 杉万監査による会計監査・業務監査報告があった。異議なく了承された。
2. 2004年度決算途中経過
 - 渥美会長より別紙資料に基づき報告があった。異議なく了承された。
3. 会員異動・会費納入率
 - 渥美会長より別紙資料に基づき報告があった。納入率の向上へ向けて督促などの努力、長期未納者への対応（自動退会など）が必要との意見が出された。異議なく了承された。

選挙結果報告

1. 今城選挙管理委員長から別紙資料に基づき報告があった。

雑誌改革

1. 渥美会長より別紙資料に基づき、これまでの経緯について報告があり、雑誌改革に関する議論を今後も、より具体的な形で継続していくこととなった。

【審議事項】

1. 2005年度予算案
 - 渥美会長より別紙資料に基づき説明があった。「大会助成金」は「大会運営費」として計上する方がいいとの意見が出され、了承された。
 - 会員数を実態とあわせるべく、今後、会費未納入者の「自動退会」制度を導入（理事会の決議を経て）するための措置をしたほうがいい（収入欄の会員数を減らすなど）
2. 倫理綱領
 - 吉田常任理事より、別紙資料に基づき提案があった。異議なく了承された。位置づけとしては、「倫理綱領」として独立して位置づける。
3. 特集論文執筆要項
 - 特集論文執筆要項 山口常任理事より、別紙資料に基づいて提案があった。ただし、細則ではなく実社心研の編集諸規定の中に位置づける。実験社会心理学「研究」（言葉）を入れることとした。

★★ 2005年度 第1回常任理事会・常任編集委員会議事録 ★★

- 日時：2005年7月2日（土）13:00～
- 場所：横浜国立大学経営学部D-403会議室
- 出席者：山口勸・吉田道雄・吉田俊和・相川充・山口裕幸・
渥美公秀・村本由紀子

常任理事会

【報告事項】

1. 日本心理学連合
 - ・ 山口勸会長より、第1回理事会（6月25日）の出席報告があった。
2. その他
 - ・ 山口勸会長および相川常任理事（渉外担当）より、次回の年次大会は平成18年5月27・28日に武蔵野大学にて開催予定（大会準備委員長・小西啓史教授）であること、第一号通信は本年9月に予定されていることが報告された。

【審議事項】

1. 前年度決算
 - ・ 渥美前会長より、来週中にも小口会計（学会事務局・編集事務局）の残金を学会口座へ返還し、決算を確定させる見込である旨の報告があった。
 - ・ 発行が今年度にずれ込んでいる実験社会心理学研究第44巻に関わる支出について、1) メインの印刷費は前年度決算に含めること、2) 広告収入・抜刷代など後から発生する費用は新年度決算へまわすことが確認された。
2. 前回の常任理事会・理事会議事録の確定
 - ・ 文言に若干未完成の箇所があるため、渥美前会長がこれを修正のうえ、後日、同報メールにて回覧することとなった。なお、常任理事会の議事録は新旧常任理事に、理事会議事録は新旧理事に、それぞれ回覧のうえ確定させる必要があることを確認した。
3. 次期大会における「学会発表」賞の創設
 - ・ 相川常任理事（渉外担当）より、原案の報告とそれに基づく意見交換がなされた。
 - ・ 主な論点は以下の通り：1) 年齢制限を設けるか、2) ポスター発表・口頭発表のそれぞれについて賞を設けるか、3) 事前原稿および大会当日のプレゼンテーションのいずれを評価するか、4) 審査者は誰にするか、5) 受賞者発表の場はどこにするか。
 - ・ 以上の点につき、小西次期大会委員長・山口会長・相川常任理事の3者で夏季休業中に討議することが了承された。
4. 「ぐるだいニュース」のオンライン化
 - ・ 山口裕幸常任理事（広報担当）より以下の提案がなされ、了承された。
 - 1) 紙媒体は廃止する。
 - 2) 会員の2割が電子媒体を利用していない現状を鑑み、実験社会心理学研究の紙上に彙報（理事会議事録・選挙結果・予算決算など）を掲載する。
 - 3) 上記2)にもとづき、第45巻1号に前年度決算および前回理事会議事録を掲載する。なお、今後とも、理事会と常任理事会が同時開催された場合には原則として理事会議事録のみを掲載する。
 - 4) 「ぐるだいニュース」自体はオンラインで継続させ、大会参加記などをホームページにて公開する。メールマガジン（JGDA_Flash）に記事のリンク先を掲載することにより、会員に広く情報を提供する。
5. 大会発表論文のデータベース化
 - ・ 山口勸会長より、大会発表論文（タイトル・キーワード・発表者名）に係るインターネットの検索データベースを構築するという基本提案がなされ、了承された。今後、社会心理学会とフォーマットを共有する方向で調整に入り、検索方法や費用面などを含めた具体案を策定の上、山口会長より再度提案がなされることとなった。

6. 会費未納者の取り扱い・会員の自然退会制度
 - ・ 山口勸会長より、本件に関してあらかじめ理事宛てに行った意見聴取結果について報告があった。これを踏まえ、常任理事会としては、会費未納者について「2年間の猶予期間の後に自然退会とする（猶予期間中に督促および退会勧告を行う）」という提案を行うことで基本的に合意した。
 - ・ 同じく山口勸会長より、実験社会心理学研究の送付時期について「その年度の会費納入確認後とする」という提案がなされ、了承された（第45巻から実施予定）。
7. 会員名簿の刊行
 - ・ 山口会長より、退会者確定後に刊行する旨の提案があり、了承された。住所確認ハガキを送付する際には、名簿に掲載したくない事項を会員が個別に選択できるよう配慮することとした。ただし、そもそも「名簿掲載を望まない」という選択を認めるか否かについては、他学会の事例を事務支局に照会しつつ、引き続き審議することで一致した。
8. 学会誌の著作権問題
 - ・ 山口勸会長から、今後は掲載決定後に第一著者から「著作権譲渡同意書」をとることにしたいとの提案がなされた。学会誌掲載論文の著作権が学会に属することについては執筆規定に明記されているが、その一方で電子ジャーナル等の新しい形態に改めて対応する必要が生じていることに鑑みたものであり、了承された。
 - ・ バックナンバーも随時電子ジャーナル化される可能性があるが、これについては、異議のある著者のみ一定の期間内に申し出るよう告知する等の方策をとることにはしていかがかとの議論がなされた。
9. 心理学検定実施のための分担資金・協力資金
 - ・ 山口勸会長より、日本心理学連合の新執行部の意向が不明確であるため、当面静観したいとの提案があり、了承された。
10. 学術著作権協会への「文献提供業者に限定的な電子化を許諾する権利」の委任
 - ・ 先方が提示している標準的な金額でサインすることで合意した。
11. 倫理綱領
 - ・ 前文の文言を再度調整の上、吉田道雄常任理事（倫理担当）より再提案を行うこととなった。なお、綱領には「罰則」は記載しないことが確認された。
12. その他
 - ・ 相川常任理事（渉外担当）より、年次大会参加のWeb受付システムの構築可能性についての検討結果が報告された。中西印刷の見積りは129万円とのこと。国際文献にも打診することになった。
 - ・ 次回常任理事会の日程：9月11日を予定。
 - ・ 前年度からの申し送り事項として、1) 予算・決算・会計年度、2) 雑誌改革、3) AA SP大会参加奨励賞の設置等を確認した。これらについては、前回常任理事会・理事会議事録確定後に、渥美常任理事（前会長）より改めて提起することとなった。

常任編集委員会

【報告事項】

1. 審査状況
 - ・ 山口勸編集委員長より、実験社会心理学研究の審査・編集状況について報告があった。
2. その他
 - ・ 山口勸編集委員長より、7月2日にBlackwell社の担当者と面会したことについて報告があった。

【審議事項】

1. 第45巻の刊行
 - ・ 山口勸編集委員長より、第45巻1号については受理済の論文2件および特集論文（企画者：大淵憲一氏）で構成する旨の提案がなされ、了承された。
2. メディ・イシューとの関係
 - ・ 販売用の在庫と併せて、学会保存用のバックナンバー（実験社会心理学研究および大会論文集、各号1冊）についても同社に保管を依頼することで合意した。

3. 論文の転載許可
 - ・ 山口勸編集委員長より、実験社会心理学研究第26巻1号に掲載された藪内稔氏の論文「メタゲーム理論と囚人のディレンマにおける条件付方略の拡張」について、『数理科学』2004年11月号および『ゲーム理論の新展開』（いずれもサイエンス社）における同氏の著作への引用許可の願いがあった旨が報告された。審議の結果、転載に問題なしとの結論で一致した。ただし、既に刊行済みの『数理科学』については追認となるため、できれば転載許可を得た旨の注記を次号に付してもらうよう要請することとなった。
4. その他
 - ・ 山口勸編集委員長より、審査のさらなる円滑化をはかるため、理事外から新たに唐沢穰氏・北村英哉氏に主査を委嘱したい旨の提案がなされ、了承された。この決定につき理事会に報告することとした。

★★ 2005年度 第2回常任理事会・常任編集委員会議事録 ★★

- 日時：2005年9月11日（日）13:00～16:30
- 場所：日本心理学会第69回大会会場内
（慶應義塾大学三田キャンパス研究室棟地下第2会議室）
- 出席者：山口勸・吉田道雄・吉田俊和・山口裕幸・
渥美公秀・村本由紀子

常任理事会

【報告事項】

1. 未納会費の徴収状況
 - ・ 山口勸会長より、会員数名より未納会費の支払がなされたとの報告があった。
 - ・ 次のぐるだいにニュースにおいて、会費未納者は2年間の猶予期間後に自然退会とすること・雑誌の送付を今年度会費納入確認後に行うことについて、山口会長名の告知文を掲載することを決めた。
2. その他
 - ・ 山口勸会長より、中西印刷との事務委託契約の内容について理事メーリングリストで通知した旨の報告があった。
 - ・ 山口裕幸常任理事（広報担当）より、紙媒体による最後の「ぐるだいにニュース」が編集の最終段階に入っている旨の報告があった。

【審議事項】

1. 前回議事録の確認
 - ・ 7月2日に開催された第1回常任理事会の議事録が承認された。
2. 前年度決算処理の確認
 - ・ 渥美前会長より、前年度決算に関わる学会事務局・編集事務局側の処理はすべて完了した旨の報告があった。今後、事務支局（中西印刷）に最終的な決算書類の作成を依頼し、あわせて会計監査の手続きを進めることを確認した。
3. 年次大会における「優秀発表賞」の制定
 - ・ 山口会長より、小西次期大会委員長および相川常任理事（渉外担当）との討議内容について報告があった。
 - ・ 意見交換の結果、以下の点について基本的な合意が得られた：1) 対象を若手に限定する（「博士後期課程修了または退学後5年以内」などの規定を設ける）、2) ポスター、ショート・スピーチなどの種目別に制定し、研究内容のみならずプレゼンテーション技術についても評価する、3) 審査主体は年次大会会催校ではなく、学会理事・常任理事側が中心となって進める、4) 大会当日の審査を円滑に進めるため、エントリー方式や事前投票による絞込み方法などについて検討する。
 - ・ 本日の議論を踏まえ、山口会長と相川常任理事を中心に修正案を作成し、引き続き審

- 議することとなった。
4. 年次大会における常任理事企画
 - ・ 山口会長より、年次大会の活性化・参加者増を図るための企画を積極的に推進すること、企画に伴う経費を来年度予算に盛り込むことが提案され、了承された。
 - ・ 具体案として、研究方法論に関するシンポジウムや統計技法ワークショップ（HLMなど）、英語論文執筆技法ワークショップなどのアイディアが出された。来々5月の次期大会に向けて引き続き審議することとなった。
 5. 年次大会の参加・発表申込のWeb登録システムについて
 - ・ 山口会長より、次期大会からの導入はコスト面で難しいとの見解が示され、今後の課題として検討を続けることとなった。
 6. 「副会長」に関する細則の変更
 - ・ 山口会長より、副会長と事務局長の兼務を前提とした現行の細則第19条第六項の「副会長（事務局担当）」という文言について、括弧内の限定条件を外したいとの提案がなされ、審議の結果了承された。後日、山口会長より理事会に提案することとなった。
 - ・ 副会長の職は日常的には不要であり、会長の長期不在などやむを得ない場合に限って会長代行の意味で選任するのが適当であろうとの見解で一致した。
 7. 会長と編集長の兼務に関する細則の変更
 - ・ 山口会長より、現行の細則第33条における「編集委員長は会長が兼務する」との規定を改定し、両者を分離した方がよいのではないかと提案が出され、審議の結果了承された。また、分離後の編集委員長を「会長指名」とするか「常任理事の互選」とするかについては、会長指名として差し支えないとの見解で一致した。後日、山口会長より理事会に提案することとなった。
 8. 倫理綱領
 - ・ 吉田道雄常任理事（倫理担当）より、前回以降の議論を踏まえた修正提案がなされ、審議の結果、了承された。後日、最終調整後の文書が吉田常任理事より示されることとなった。
 9. 前年度執行部からの申し送り事項
 - ・ 渥美常任理事・前会長より、1) 雑誌改革、2) 会計システムの整備（より厳密な監査やチェック機能）、3) 会員種別の見直し、の3点が申し送り事項として提示され、それぞれについて意見交換を行った。いずれも審議を継続していくことが改めて確認された。
 10. その他
 - ・ 山口裕幸常任理事（広報担当）より、近刊の「ぐるだニュース」に第1回常任理事会議事録を掲載したいとの提案がなされ、了承された。

常任編集委員会

【報告事項】

1. 審査状況
 - ・ 山口勸編集委員長より、実験社会心理学研究の審査・編集状況について報告があった。

【審議事項】

1. 前回議事録の確認
 - ・ 7月2日に開催された第1回常任編集理事会の議事録が承認された。
2. 第45巻の刊行
 - ・ 山口勸編集委員長より、第45巻1号について、受理済の論文2編および特集論文（企画者：大淵憲一氏）が出揃って刊行可能な状況にある旨の報告があり、了承された。
3. AJSPに関するBlackwell社からの提案
 - ・ 山口勸編集委員長より、Blackwell社から次回の契約更改（2008年）を待たずにいくつかの変更提案が来ていることについて説明があり、これに基づく意見交換がなされた。
 - ・ 主たる論点として以下が挙げられた。
 - 1) 2005年の間は、現行の雑誌サイズのままで30ページ増とするとの提案だが、これらの追加経費（当学会負担分はUSD 1650）と編集経費の両方を印税の範囲内

でまかなえるのか？

2) 2006年の印税率について、現行の「紙媒体のみについて12%」から「紙媒体＋電子媒の両方について10%」にしたいとの提案は妥当か？

3) 2006年からは雑誌サイズを拡大する(276mm x 210mm)とのことだが、当学会にとって現状以上の負担増になる可能性はないか？

・ 現在、理事からも意見聴取中であり、引き続き検討することとなった。

★★ 会員異動 ★★

◆新入会員◆

<省略>

◆所属先変更◆

<省略>

◆住所変更◆

<省略>

◆退会◆

<省略>

★★ 事務局からのお願い ★★

◆実験社会心理学研究の特集テーマ募集

「実験社会心理学研究」には、グループ・ダイナミックスや社会心理学に関連する特集を掲載します。特集は、読みごたえのある論文3編程度で構成します。特集についての企画をお持ちの会員は、企画の趣旨、特集論文の概要等をまとめた企画書(A4版1-2枚程度)を、編集委員長に提出して下さい。企画の採択については、常任編集委員会で審議、決定します。特集論文の審査手順など詳細については、学会ホームページに掲載してあります。URLは、<http://www.groupdynamics.gr.jp/tokusyu.htm>です。ご参照ください。

なお、「実験社会心理学研究」は、特集の掲載によって、一般投稿論文の掲載に大幅な遅滞が生じないことを重視しています。企画を提出される方は、この点をお含みおき下さい。

◆実験社会心理学研究の書評候補募集

事務局では、実験社会心理学研究の書評の候補となる著作を随時募集致しております。よい本がありましたら事務局までご推薦ください。

★★ 広報担当からのお知らせ ★★

◆紙媒体の「ぐるだいニュース」は今号までです。次号からはオンライン化して、学会ホームページに掲載します。新しい「ぐるだいニュース」発行のお知らせは、グルダイフラッシュ(e-mail)でお届けする予定です。今後とも、会員の皆様方には、情報提供等、発行へのご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

◆JGDA_Flash: グルダイでは【日本グループダイナミックス学会・広報(速報)メールマガジン】(JGDA_Flash)を運用しています。これは、速報性が要求される情報・ニュースを会員のみなさまにe-mailでお知らせしようとするものです。現在登録されている会員は約600名です。グルダイ会員のみなさまの中には、会員名簿にメールアドレス

を掲載されていない方や最近アドレスを取得された方、またアドレスを変更された方なども少なくないのではないかと思います。登録、メールアドレスの変更、配信停止の連絡、マガジンに関するご希望・お問い合わせ等は、グルダイ広報メールマガジン運営担当マスターのアドレス

office@groupdynamics.gr.jp

までお願いいたします。また、新刊案内や研究会案内等のニュース記事も大歓迎いたします。同アドレスまでお送りください。なお、これまでに配信されたFlashは、

<http://www.groupdynamics.gr.jp/cgi-bin/magbbs.cgi>

で閲覧可能です。

★★ グルダイ学会関係連絡先 ★★

すでにご承知の方も多いと思いますが、改めてお知らせします。本学会では、事務支局を中西印刷株式会社に開設しております。入退会、住所・所属等変更、会費納入、機関誌・ニュースレターの未着・メールマガジンなどのメール配信先の登録・変更・停止等の連絡先は、事務支局である中西印刷株式会社までご連絡ください。各種お問い合わせの具体的な連絡先は以下の通りです。

- ◆【事務支局】住所・所属変更、その他お問い合わせは、
中西印刷株式会社 学会部（日本グループ・ダイナミックス学会担当：糸魚川）
〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル
TEL: 075-415-3661 FAX: 075-415-3662 e-mail: jgda@nacos.com
- ◆投稿論文の送付、機関誌編集に関する問い合わせ、その他学会運営に関するご意見は、
「実験社会心理学研究」編集事務局
東京大学大学院人文社会系研究科(社会心理学) 山口研究室内
Tel: 03-5841-3870 FAX: 03-3815-6673 e-mail: jjesp_ed@L.u-tokyo.ac.jp
- ◆ぐるだいのニュースの編集・記事の投稿、メールマガジンへのニュース記事投稿、新刊案内や研究会案内等のニュース記事、公募情報などは、
九州大学大学院人間環境学研究院 集団力学（山口裕幸）研究室
〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1 九州大学大学院人間環境学研究院
TEL・Fax: 092-642-3160
もしくは、E-mail: office@groupdynamics.gr.jpまでお送りください。
また、マガジンに関するご希望・お問い合わせ等も、同アドレスまでお送りください。

- ◆学会事務局
横浜国立大学大学院 国際社会科学研究科 村本研究室
TEL/FAX: 045-339-3714 E-mail: sec-general@groupdynamics.gr.jp

◎（編集後記、というかお詫びを）不慣れもあってずいぶん編集に時間がかかってしまいました。早くに原稿をいただいていた先生方には大変申し訳ありませんでした。（編集子）

<SPSS社広告（B5：1ページ）>

<ナカニシヤ出版広告（B6：半ページ）>

<北大路書房広告（B6：半ページ）>